

## 第三者評価結果入力シート（母子生活支援施設）

種別	母子生活支援施設
----	----------

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー
--------------------

### ②評価調査者研修修了番号

SK2021040
SK2021037
S2021020

### ③施設名等

名称：	むつみハイム
施設長氏名：	高柳 茂治
定員：	20世帯
所在地(都道府県)：	山形県
所在地(市町村以下)：	山形市小白川町五丁目18番9号
T E L：	023-632-5075
U R L：	<a href="https://www.mutsumi-heim.com/">https://www.mutsumi-heim.com/</a>

#### 【施設の概要】

開設年月日	1958(昭和33)年6月18日
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人出羽むつみ会
職員数 常勤職員：	10名
職員数 非常勤職員：	2名
有資格職員の名称(ア)	保育士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称(イ)	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称(ウ)	医師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(エ)	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称(オ)	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称(カ)	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要(ア) 居室数：	2LDK・17室 1LDK・3室
施設設備の概要(イ) 設備等：	学習室・会議室
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

### ④理念・基本方針

#### 【理念】

母子生活支援施設は、児童福祉法、児童憲章や母子生活支援施設運営指針及び倫理綱領の精神に則り、母親と子どもに最善の利益を保障すると共に、母と子の権利擁護を守り、生活の拠点として、子どもを育み、子どもが育つことを保障し、安定した生活の営みを支えます。そのために、むつみハイムは、母と子のそれぞれの人格と個性を尊重して自立への歩みを支え、ともに、公正で公平な施設運営を心がけ、母と子及び地域社会から信頼される施設として支援を行うことをめざします。

#### 【基本方針】

むつみハイムは、母子家庭の生活の安定と子どもの健やかな成長を基本方針とし、きめ細やかな支援を必要とする利用者に対し、安心して暮らせる生活環境を整え、相談・子育て支援・児童の健全育成・就労とアフターケア等を積極的に支援し、ひとり親家庭の自立促進を図ることを目標としています。むつみハイムには、児童虐待やDV（ドメスティック・バイオレンス）被害を受けた母子や障害のある母子、外国人の母子など、多様で困難な課題のある利用者が増加しており、権利を侵害された人々たちに対するケアの個別化を図り、癒しとその後の自立に向けて、利用者との信頼関係を構築し、利用者が安心して暮らせる、自立出来るよう支援体制を充実していきます。

また、第三者評価事業の評価を基本方針に反映させ、随時、自己評価に取り組み支援の向上を図っていきます。職員においては、従来にもまして高い専門性が要請されることから、人事評価を行いながら、研鑽と資質向上に励んでいきます。

### ⑤施設の特徴的な取組

配偶者暴力などにより、母はもとより子どもも複雑多岐な課題を抱えている現状に対応するため臨床心理士を配置して心のケアの充実に努めています。

また、近隣市町からの受託事業としてショートステイ・トワイライト事業を実施したり、保育実習生や介護等体験の学生の受入など地域社会への福祉貢献にも努めています。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/7/14	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2022/11/4	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和元年度（和暦）	

⑦総評

◆特に評価の高い点

1. 母親と子どものニーズに応じた自立支援について

障害、外国籍、疾病などによる通院、若年、生活保護など、入所している母親の課題や状況は多様かつ複雑です。一人ひとりのニーズや環境も様々で、アセスメントにもとづき、自立に向けてその人に合った丁寧なかかわりを大切にしています。支援が困難な母親に対しては、厳しい環境から離れ入所を自ら決断したことを職員が尊重し、ありのままの姿を認めて、職員との信頼関係を構築するよう努めています。一方、支援によって生活が軌道にのり、施設の行事の計画づくりや司会進行を担当するなどの社会経験を積んでいる母親や、将来に備えて学校に通い勉強している母親もいます。母親と子どもそれぞれの状況に合わせ、自立支援計画にそって、地域で自立して生活していくための支援を行っています。

2. それぞれの専門分野を生かした支援とリーダーシップ

施設長が中心となって、母子支援員、少年指導員、保育士、公認心理師が、それぞれの専門性を発揮して支援にあたっています。日々の申し送りや、職員全員が参加する事例検討で支援の方向性のすり合わせを定例化しており、チームワークを大切にしています。施設長、主任は、職員の声をよく聴きアドバイスをし、職員の頑張りを積極的に評価しています。さらに、施設が現在地に移り20周年を迎えることから、記念行事を計画し、広報紙を発行するなどし、理事やOBを巻き込んで施設長がリーダーシップを発揮しています。

3. 働きやすい職場環境づくり

人材確保では、実習生への指導から有資格者の採用につながっています。中途採用の際は、前職での経験を処遇に反映するよう改善しています。公認心理師等専門性の高い職員も加配し、よりよい支援ができる体制を整えています。また、職員間のコミュニケーションを重視しており、経験の浅い職員にも気配りし、職員が安心して働ける環境を整備し、支援の質の向上に向けて尽力しています。一人ひとりの職員育成のため個別の目標を設定しており、定期的なヒアリングで自己評価し、それをふまえて管理職が達成度を確認・評価し、やりがいを持って働く職場づくりをしています。職員の家庭環境等個人の事情をくみとり、働き方を調整し働きやすい職場環境とするよう配慮しています。

◆改善を求められる点

1. 中・長期計画の更新

平成27年度に策定した「むつみハイム機能強化整備計画」を、経営面を含む中長期的な計画として位置付けてきました。計画にそって保育所の開設など施設建設を含む大規模な事業を立ち上げ、その後小規模保育所から定員を増やし認可保育所とするなど、経営面での安定化が図られました。大規模な整備が一段落し、計画策定から7年が経過したことにより、母親や子ども・地域のニーズが変化していることが考えられます。達成したこと、達成していないことを整理しなおし、理事、職員がそれぞれの立場から意見を出し合い、改めて計画を見直し新たな中・長期計画について検討することを期待します。

2. コロナ禍後の地域交流と地域の連携体制の再構築

新型コロナウイルス感染症流行前には、地域住民との交流に力をいれ成果を上げて来られました。感染症流行により、地域住民との交流やボランティアの受け入れを制限せざるを得ない状況が続きました。また、母親と子どもを取り巻く環境についても、特に就業面で影響が大きく、子どもの貧困に対して「子ども食堂」「フードバンク」などの支援活動が盛んに行われるようになりました。このような変化の中、地域や関係機関との連携体制をどのように見直し、地域ニーズへの対応をどのように再構成していくか、よく検討すべき時期に来ています。これまで培ってきた連携をベースにさらに新たな連携を模索し、再構築されることを期待します。

3. マニュアル類の整理

母親と子どもからの相談や意見に対する対応や、プライバシー・個人情報の保護などの一部の項目で、マニュアル類が不足しています。職員の意識の統一や支援の標準化のためにも、マニュアル類の策定や整理・見直しが求められます。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

高い評価をいただいた点に関しては今後も同様の評価をしていただけるよう、一層の研鑽を図って参りたい。また、評価機関からだけでなく、利用者そして地域の方々からもそのように評価していただけるよう、支援されて良かったと思っただけのように努めたい。改善点として、地域交流の在り方等、公益的な取組が社会福祉法人に期待されており、地域ニーズの把握や掘起しをスピード感を持ちつつ、利用者支援、本業が疎かにならぬよう、（法人）施設機能を還元できることを熟考、熟慮していきたい。

⑨第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（母子生活支援施設）

### 共通評価基準（45項目） I 支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、母親と子どもへの周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a
<b>【コメント】</b> 理念・基本方針は文書化しており、新入職員には事前研修会や辞令交付時理事長講話の中で周知を図っている。また月一回の職員会議で確認し支援姿勢を明確にしている。母親と子どもには施設見学時にパンフレットや生活のしおり等で説明し、外国籍の方にはスマートフォンの翻訳機能等を使い周知を図っている。	

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 母親と子どもの数・母親と子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする母親と子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする母親と子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b
<b>【コメント】</b> 今現在は入所者の人数がほぼ定員の8割ぐらいで推移しており、空いている部屋は緊急時の受け入れにも利用されている。地域のニーズを把握し、法人の認可保育所と合わせた施設経営を行っている。関係機関へ広報紙やパンフレットを配布し、どの様な施設なのかを知ってもらい、施設の持っている専門的な力の発信に努めている。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	b
<b>【コメント】</b> 施設長は経営を担う立場から基本情報・事業計画の中に施設の置かれている現状の課題を明確にして職員と共有している。平成27年度に策定した「むつみハイム機能強化整備計画」の中から順次取り組みを進め今に至っている。理事会の承認を得て緊急性の高いものから予算を確保し整備を進めている。	

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>平成27年に「むつみハイム機能整備強化計画」を中・長期計画として今まで進めて来ており、その中で小規模保育所ができ、さらに令和2年に認可保育所へ移行して運営し、より安定した経営につながっている。策定以来7年が経過し達成されたものも既にあり、自転車小屋の二棟目も完成している。記載はそのままなので内容の整理等が望まれる。</p>	
<p>② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>中・長期計画にもとづいた単年度事業計画が策定されている。母親と子どもへの支援内容の充実に向けた職員の質向上と建物の経年劣化による改善で随時修理しているが壁面塗装などの大規模修繕は行わないとしている。</p>	
<p>(2) 事業計画が適切に策定されている。</p> <p>① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>事業計画については職員間で中身を検討し、理事会に諮り議決されている。コロナ感染症による影響もあり、受託事業のトワイライトステイは他地域からの利用はなかった。平成14年に開設してから20周年の節目にあたり休刊していた広報紙「ほほえみ」の再発行と記念行事が予定されている。</p>	

②	7 事業計画は、母親と子どもに周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、母親と子どもに周知（配布、掲示、説明等）されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や母親会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、母親と子どもがより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、母親と子どもの参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】		
母親へは年度初めの常会（母親会）時に事業計画や行事計画について口頭で説明し周知を図っている。年間行事に関してはプリントを手渡し、掲示板を利用するなど周知漏れのないよう取り組み、子どもへは遊びの時間等にコミュニケーションを図りながら説明し楽しみに待っている。		

#### 4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	
【コメント】		
毎年自己評価を実施し、職種や経歴による個別の結果を集約して、組織的に強みや弱みを把握し、質の向上を図り支援に活かしている。人事評価制度を取り入れており、面談を通して情報交換し、絶対評価で一人ひとりの質向上を図っている。組織として自己評価の結果についてPDCAサイクルが機能するよう期待したい。		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	
【コメント】		
様々な事情を抱えて入所してきた母親と子どもに対し、自立した生活ができるよう通過機関としての役割を職員は共有し、ハード・ソフト両面からの改善計画の見直しに取り組んでいる。今後、評価結果を分析し検討内容を記録するなどの取組みに期待したい。		

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>施設長は自らの役割と責任を業務分掌に明記し、職員に周知を図っている。むつみハイムが現在地に移転し20周年を迎えることから記念行事に指揮を執り、地域への発信にも努めている。施設長不在時の権限は、主任2人に委任している。</p>	
<p>② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>施設長は中央の研修「全国母子支援施設協議会」等へ参加し、また隣県との交流などから情報収集を行い常に関連法令に気配りして取り組んでいる。また改訂があるものは速やかに内容を見直し、職員には伝達・回覧等で周知に努めている。</p>	
<p>(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。</p>	
<p>① 12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p>(社会的養護共通)</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>施設長は個別または全体としての職員の声や意見を聴くことを大切にしている。職員会議や引継ぎ会などで出された意見や支援に際しての悩みや困難事例等の課題認識をし、支援の質向上に向け指導力を発揮している。</p>	

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
【コメント】		
働きやすい職場環境を整え事務室の机の配置換えを行い、新人職員が先輩職員と話しやすい配置、事務室を訪れた利用者に職員の顔が見える配置に取り組んでいる。夏季休暇制度も実施され、人材確保に向けては福祉人材センターやハローワーク、大学等に働きかけている。その結果新人2名の入職につながり、中途採用者は前職の経歴が給与に反映されるなど処遇改善が実施された。		

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	(社会的養護共通)	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	
【コメント】		
法人として若い人材を確保すべく、新卒採用に向けて年間スケジュールにもとづいて採用活動をし、中途採用については処遇の改善を実施している。有資格者を確保するため地元や隣県の大学に求人する他、在職中の職員に対して資格取得を後押ししている。基幹的職員、心理療法担当職員の加算職員を配置し、専門職員の機能を生かし、支援の質の向上を図っている。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
【コメント】		
「期待する職員像」として「全国母子生活支援施設協議会倫理綱領」を役員・職員の倫理的な規範、行動規範としている。人事評価は、毎年、評価シートにもとづき、職員毎に年度途中に中間ヒアリング、年度末に評価のヒアリングを行っている。国の福祉職の給与体系を参考に、給与表に拠り昇給する仕組みとしている。		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

施設長が中心となり労務について管理している。職員室の配置換えをし、職員同士が情報共有や話し合いがしやすいよう工夫している。年度末の職員ヒアリングは、職員の希望、個人や家庭の事情について話し合う機会としている。職員の意向を配慮するよう努め、働きやすくやりがいのもてる職場づくりを目指し、ハラスメント対応の担当者が決められている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

職員は、一人ひとり自分が特に頑張りたい目標を3項目ほど立てている。設定した目標は、施設長が中間ヒアリングで達成度を確認し、主任の意見を聞き判断しアドバイスしている。年度末のヒアリングでは、自己評価を受けて頑張ったことを認める視点で施設長と主任が評価している。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

外部での研修は、全国研修・県内規模の研修等年間の予定を把握し、本人からの希望にそって参加できるよう勤務調整し、分野ごと階層ごとに専門の研修を受けさせている。外部研修を各人が年1回受けられるように計画している。研修の内容は、回覧して職員間で共有している。職場内では年6回のスーパーバイズのうち、1回を講義、5回を事例検討とし職員全員参加で全体の質の向上を図っている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

施設長、主任等は全国規模の研修に参加し、最新の情報を収集し学んで研修報告書により内部で共有している。新任者は、相談事業を担当する新任者向けの研修に参加し基礎的知識を身につけている。新人職員には主任が中心となり、支援の振り返りを行っている。心理職には専任講師によるスーパービジョンが受けられるようにしている等、一人ひとりの業務に合った研修機会を設けている。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	

【コメント】

実習生受け入れ担当窓口を決め、保育士養成校と教員養成校の担当者を決めて組織的に受け入れている。実習の指導は、施設長の講話による施設概要の説明、守秘義務など注意事項の伝達を行い、毎日の実習時は、内容により各職員が指導している。実習生の新卒採用につながり、専門職確保の実績を上げることができた。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

ホームページにより、施設の理念や基本方針、主な年間行事、決算情報等、基本情報を公開している。休刊していた広報紙を再発行し、地域や関係機関に送付して活動の周知に努め施設の日々の様子を紹介し、地域に向けて情報発信している。自治会に入り、活動に参加して近隣に施設を知ってもらうように努めている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。 <input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	b
<b>【コメント】</b> 経理規程、事務処理の規程、事務に関する職務分掌など内部の規程にそって業務が行われている。会計事務所によって決算指導の他に定期的な確認、指導を受けて、より適正で透明性の高い経理処理を行う体制を整えた。		

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
①	23 母親、子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input type="checkbox"/> 母親と子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 施設や母親と子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 <input type="checkbox"/> 母親と子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の母親と子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。 (母子生活支援施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	b
<b>【コメント】</b> 将来地域で自立して生活してもらうための第一歩として、施設として自治会に入会し、地域行事に参加し運動会等の学校行事にも参加している。感染症流行以前は、夏祭りなど自治会と共催の事業で地域住民と一緒に楽しむ機会を設けていたが現在は内部のみの行事となっている。集会室を活用し、子どもの居場所づくりとして地域の子どもと一緒に遊べるようにしている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。 <input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。 <input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> ボランティアに対して母親と子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	b
<b>【コメント】</b> ボランティアを積極的に受け入れるという事業計画のもと、退職した教員の学習指導ボランティアや、学習や放課後活動を支援する学生ボランティアサークルを定期的に受け入れてきたが、現在は受け入れていない。感染症の流行が落ち着いてきた場合、担当者を通じ、子どもとボランティアのニーズをマッチングした受け入れに期待したい。		

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の母親と子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、母親と子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

支援の継続性を念頭に、県内のネットワークとしてDV被害者支援の連絡協議会に参加している。母子寡婦福祉連合会の担当者とも連携している。福祉事務所の婦人相談員と連絡を取り合い支援に活かしている。車のない母親は送迎するなどして、母親と関連機関がスムーズにつながれるよう支援している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

施設長が自治会に参加し、地域と連絡を取り合い福祉ニーズを把握するよう努めている。感染症流行以前は夏祭り、餅つき等の行事に地域住民が参加し、施設を身近に感じてもらっていた。施設の持つ機能を地域に還元すべく、地域の人の困りごとと電話相談に専門性を活かし対応している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

地域の子育て支援のため、放課後の子どもの居場所として、子どもの友達が集会室で一緒に遊ぶことができるようにしている。感染症流行のため機会は減っているが、自治会と共催してイベントを開催し、施設の母親と子ども、地域住民や地域の子どもたちが一緒に楽しんでいる。ショートステイ事業等は、委託する市町が増えてきている。

Ⅲ 適切な支援の実施  
1 母親と子ども本位の支援

(1) 母親と子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	<p>28 母親と子どもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、母親と子どもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもを尊重した支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</p>	b
【コメント】		
<p>母親と子どもを尊重した支援についての基本姿勢が、施設の理念、基本方針、具体的な支援方法に盛り込まれている。職員に周知し共通理解を図っている。支援の基本姿勢について、自己評価やスーパーバイズの機会にも振り返ってもらっている。新任職員には、家庭に様々な背景があることを理解してもらい、母親と子どもがたいへんな状況から自己決定して入所したことを理解するように伝えている。</p>		
②	<p>29 母親と子どものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一人ひとりの母親と子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、母親と子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもにプライバシー保護に関する取組を周知している。</p>	b
【コメント】		
<p>倫理綱領、母子生活支援施設運営ハンドブックにもとづき、母親と子どものプライバシー保護に配慮した支援を行っている。記録や支援計画を作成するパソコンは、各自パスワードが設定されている。母親と子どもに対しては、生活のしおり、入所時の面談で、プライバシー保護について周知し、入所している母親同士のトラブルを防ぐよう努めている。規程の策定には至っておらず、今後に期待したい。</p>		
(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	<p>30 母親と子どもに対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設に入所予定の母親と子どもについては、個別に丁寧な説明を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもに対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</p>	b
【コメント】		
<p>入所に際しては、母親と子どもの年齢に合わせて事前説明を行い、情報提供はパンフレットや生活のしおりを活用した説明をしている。母親からの情報提供を求められる時があり面談で確認している。それらをもとに同意の上入所している。</p>		

②	31 支援の開始・過程において母親と子どもにわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う支援について母親と子どもができるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、母親と子どもの同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な母親と子どもへの配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

入所を決め施設に入る時にパンフレットや生活のしおりを活用し、母親と子どもへ再度説明し、生活をする上での決まり事ひとつひとつ確認しながら丁寧に説明している。学童については、少年指導員から施設や学校での決まりなどについて説明している。

③	32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として母親と子どもが相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、母親と子どもに対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

利用者のアフターケアには、退所先の自治体等関係機関や措置機関へ必要に応じた情報提供を行い、安定した生活につながるよう支援している。退所後は施設行事に招待するなどコンタクトをとり、相談窓口を継続し支援に努めている。

(3) 母親と子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 母親と子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもへの個別の相談面接や聴取等が、母親と子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、母親と子どもの満足を把握する目的で、母親と子ども会等に出席している。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、母親と子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

母親と子どもの満足に向けて、年に数回の面談で思いや気持ちを把握している。意見箱が活用しやすいように設置場所を変更した。この度の利用者調査においては、職員への感謝の言葉が多く聞かれた。

(4) 母親と子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を母親と子どもに配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、母親と子どもが苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、母親と子どもに必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た母親と子どものプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

苦情解決に関して、受付担当者や第三者委員を決めており周知している。「ご意見をお聞かせください」などの用紙を作成し母親と子どもがいつでも意見を述べられる配慮をしている。今現在苦情は出されていないが、苦情を申し出た母親と子どものプライバシーは守られている。

②	35 母親と子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、母親と子どもに周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	

【コメント】

母親と子どもの声は、直接担当職員か、不在の時は担当職員以外でも話せるように説明をしている。相談内容によっては、施設長や主任に相談することもある。子どもの場合は相談室や部屋を活用し、高校生などは心理職員が関わり相談しやすい環境を整えている。

③	36 母親と子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の支援の実施において、母親と子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、母親と子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

母親や子どもから出された意見は業務日誌で職員同士共有し対応している。内容によっては、心理職などの専門職が関わり組織的に取り組んでいる。

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	<p>37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p> <p><input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。</p>	b
【コメント】		
母親と子どもが安心して暮らせように、防犯カメラの設置や警察と連携を図り対応している。今後さらに、リスクマネジメントの研修や、事件事例の収集などにより改善を図るよう期待したい。		
②	<p>38 感染症の予防や発生時における母親と子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。</p>	b
【コメント】		
新型コロナウイルス感染症のワクチンについては各自の意思に任せている。感染症に対しては、国で出されている感染症マニュアルを活用し、嘱託医と連携を図りながら対応している。特に、食中毒に注意を払い、各家庭の居室を定期的に点検し注意を促している。各家庭には、県から情報を提示している。		
③	<p>39 災害時における母親と子どもの安全確保のための取組を組織的にやっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。</p>	b
【コメント】		
総合訓練を年2回、連絡訓練、伝達訓練を実施し、月1回の様々な想定で訓練を実施し母親と子どもも参加し防災訓練を実施している。訓練時には、近隣住民に事前に連絡し理解を得ている。第一避難場所は駐車場とし、近隣の学校と定めている。施設の目の前に川があるので風水害の訓練回数が増えるよう期待したい。貯水タンクや自家発電を完備し災害に備えている。不在時の安否確認は、伝言ダイヤルの活用を周知している。		

## 2 支援の質の確保

(1) 支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	<p>40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、母親と子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p>	b
【コメント】		
標準的なものとして母子生活支援施設運営ハンドブックを職員一人ひとりに手渡し養育支援に活用している。		
②	<p>41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や母親と子どもからの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。</p>	b
【コメント】		
母子生活支援施設運営ハンドブックをもとに母親や子どもの支援をしている。母親と子どもへの支援は、年2回の面談を通して見直しをしている。母親や子どもの意見が出た場合、内容を受け止め把握し、必要に応じて自立支援計画に反映するようにしている。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	<p>42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画には、母親と子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な支援の内容等が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、母親と子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な支援が行われている。</p>	b
【コメント】		
各市町村からくる資料をもとに確認、聞き取りを行い「ケース台帳」の世帯の状況、主な近親者、生活歴、特記事項などの項目でアセスメントを行っている。アセスメント内容をもとにニーズをとらえ、母親と子どもの自立支援計画を立てているが、子ども独自の自立支援計画作成を目指している。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、母親と子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

自立支援計画においては、母親と子どもと年2回の面談を行い相談しながら評価・見直しを行っている。変更や見直しした自立支援計画は、職員間で回覧し共有し、最後に施設長から確認をもらっている。急に変更が発生したときは、担当職員を中心に対応し、自立支援計画の変更が必要となり母親と一緒に計画を作るときもある。内容について職員及び施設長と共有できるようにしている。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 母親と子どもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	

【コメント】

母親と子どもに対する職員の対応や支援内容はパソコンに記録し職員間の記載ばらつきを無くすよう努めている。支援内容や対応内容は、職員がシステム上で共有出来ている。

②	45 母親と子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、母親と子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	

【コメント】

母親と子どもの記録はパソコンで管理を行っている。母親や子ども等のプライバシーに関わる内容があるのでパソコンを操作している時に外から見られないように画面にフィルターを活用し外来者などから見られないよう配慮している。

内容評価基準（25項目）

A-1 母親と子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 母親と子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 母親と子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じて、関係機関等と連携を図り対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 母親と子どもの思想・信教の自由を保障している。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>母親と子どもの権利擁護・権利侵害があってはならないことを理念に明記し、倫理綱領・運営ハンドブック等で更に理解を深め、関係機関とも連携を図り養育支援に取り組んでいる。外国籍の方の文化の違いを理解し、現在入所者に問題行動や勧誘などのトラブルは見られず、信教の自由を重んじた対応をしている。</p>	
<p>(2) 権利侵害への対応</p> <p>① A2 いかなる場合においても、職員等による暴力や脅かし、人格的辱め、心理的虐待、セクシャルハラスメントなどの不適切なかかわりが起こらないよう権利侵害を防止している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定し、施設長が職員と利用者の双方に事実確認や原因の分析等を行うことや「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、具体的な例を示しながら、研修や話し合いを行い、職員による不適切なかかわりを行わないための支援技術を習得させている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの禁止を職員等に徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員からの暴力や言葉による脅かしなどの、不適切なかかわりが発生した場合に対応するためのマニュアル等を整備し、規程に基づいて厳正に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりや暴力を見たり聞いたりしたら、管理者等に報告することを義務付けている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>職員はいかなる場合であっても不適切な関わりがないよう、日々の申し送りや職員会議で話し合い就業規程にも明記している。困難事例には適切に関われるよう主任や施設長に相談し、言葉遣いなどからも誤解が生まれないように信頼関係の構築に努めている。</p>	
<p>② A3 いかなる場合においても、母親や子どもが、暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切な行為を行わないよう徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な行為の防止について、具体的な例を示して、母親と子どもに周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な行為に迅速に対応できるように、母親と子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な行為の防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことの確認や職員体制の点検と改善を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切な行為を伴わない人とのかかわりについて、母親や子どもに伝え、良好な人間関係の構築を図っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>母親自身が見捨てられた経験から子どもを「たたく」などの行為や言葉の暴力などに対し、職員は家族の状況や成育歴を把握し、常に僅かな訴えやサインを見逃さないよう気づきを大切にしている。障害や心理的虐待を受けてきた子どもは自分から声を上げられないこともあり、スーパーバイザーや心理職員に関わってもらい自信を持てるよう支援している。</p>	

③	A4 子どもに対する暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりに迅速に対応できるように、子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識・具体的方法について学習する機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを伴わない子育てについて母親に伝え、良好な親子関係の構築を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 常に親子関係の把握に努め、適切な助言や支援を行っている。	

【コメント】

困難な状況を抱えている母親と子どもが自分の感情をコントロールできず、親同士や子ども同士のトラブルがある場合、職員は話を聞き必要な場合は介入し冷静な対応で人との関わり方を学べるよう対応している。また小さな事を見逃さずネグレクトなどが起きないように子どもの命を守る養育支援に努めている。

(3) 母親と子どもの意向や主体性の配慮

①	A5 母親や子どもが、自分たちの生活全般について自主的に考える活動（施設内の自治活動等）を推進し、施設における生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動（施設内の自治会活動等）を母親の理解のもとで実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが問題や課題について主体的に検討し、その上で取組、実行、評価するといった内容を含んだ活動を母親の理解と協力のもと実施している。	
	<input type="checkbox"/> 活動を通して、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう必要な支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 母親が自らの権利を学び、自主的に自分の生活を改善していく力を養えるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 母親の自治会活動等を通して、母親の自己表現力、自律性、責任感などに対する支援を行っている。	

【コメント】

母親は自治会活動を通し社会のルールを学び、夏まつりなどの計画作成や進行役を通して経験を積んでいる。将来の生活を考え、むつみハイムに来てから高校に入学し勉強を始めた母親もいる。職員は子どもの学習や遊びの中で自主性を尊重し、アドバイスを行いながら成長を見守っている。

(4) 主体性を尊重した日常生活

①	A6 日常生活への支援は、母親や子どもの主体性を尊重して行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもの自尊心や強みを大切に支援を行い、自己肯定感が回復し高まるような支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに対してストレングスの視点に基づいて、エンパワーメントしていく支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 常に母親と子どもの主体性を尊重した支援を通して、その人が力を発揮できるよう支援を行っている。	

【コメント】

毎日の生活や仕事、自治会活動などの目的を理解してもらい、それぞれが役割を果たすことで自信を持つことにつながっている。担当職員は母子の将来の夢や希望を聞き、心と体の回復、仕事に就く、子どもを守り育てるなど自立できるよう支援している。

②	A7 行事などのプログラムは、母親や子どもが参画しやすいように工夫し、計画・実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもが施設での生活を楽しめるような企画を用意している。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの主体的な参画を前提とした行事・プログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 母親向けのプログラムでは、母親が安心して参加し楽しめるように、保育などのサポートを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもの状況を考慮し、参加しやすいように内容・時間等を工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 行事等の実施後に、評価を行い次回の実施につなげている。	

【コメント】

町内会に加入しており、年10回の常会を開催し役割を持って活動している。行事は母子の意見を聞きながら実施し、バスハイキングは大勢の母子が参加し楽しい思い出になっている。ハイム一斉清掃、居室掃除の日を決めて皆が協力して気持ちよく暮らせる生活に努め、職員はそれらの機会を捉えそれとなく居住生活の様子を把握し、必要に応じてアドバイスを行っている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A8 母親と子どもが安定した生活を送ることができるよう、退所後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 退所後の支援が効果的に行われるよう、退所後の支援計画を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 退所した地域で安定して暮らすために、必要に応じて退所先の行政機関をはじめ、多様な地域の関係機関や団体とネットワークを形成し、母親と子どもが適切な支援が受けられるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 退所後も電話や来所によって施設に相談できることを母親と子どもに説明し、生活や子育て等の相談や施設機能を活用した(学童保育・学習支援・施設行事への招待等)支援を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 退所後の生活が安定していることを確認するための往訪や架電等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて退所先に往訪し、介助や同行・代行等の支援を行っている。	

【コメント】

課題解決して(離婚成立など)生活基盤が確立、子どもの成長などの理由で退所につながっている。さらに社会資源を活用して本人の意向に沿った支援をしている。退所後の不安にはいつでも相談にのり、行事への招待や訪問、電話対応などの窓口を開き都度対応している。

A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本		第三者 評価結果
①	A9 母親と子どもそれぞれの個別の課題に対応して、専門的支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもがそれぞれ抱える個別の課題に対して、目的や目標を明確にし計画的で一貫した専門的支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの課題を正しく理解し、親子・家庭のあり方を重視した支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが、自己の意思で課題を解決できるように個々の気持ちに寄り添った支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 資料等を使いながら、必要な手続きをわかりやすく説明し、必要に応じて職員が機関等への同行及び代弁を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 専門的な支援を行うために、その支援に必要な資格や経験等を考慮した職員を配置し、職員間で連携・協議を行っている。	

【コメント】

DV被害や家庭環境の問題を抱えている母親と子どもが安心して暮らせる環境に配慮し、24時間体制で職員はそれぞれの課題に専門的な立場から支援を行っている。外国籍の入所者には国際交流協会の通訳を依頼している。心理支援が必要な利用者には心理療法担当職員が専門的な知見で対応している。

(2) 入所初期の支援

①	A10 入所に当たり、母親と子どもそれぞれのアセスメントに基づき、生活課題・ニーズを把握し、生活や精神的な安定に向けた支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 入所直後は心理的に不安になりやすいため、信頼関係の構築に心がけ、心の安定に向けた相談支援に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが安心して施設を利用し、課題の解決に向かえるように、関係機関等と連携して情報提供に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが保育所・学校に速やかに入所・通学できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、生活用具・家財道具等の貸し出しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 居室は、母親と子どもが生活するために必要な十分なスペースが確保され、プライバシーに配慮したものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 身体に障害のある母親や子どもに対しても、安全に生活ができるように配慮している。	

【コメント】

措置機関からのアセスメントをもとに入所に至る経緯を理解し、入所後しばらくは不安もあるので様子を見ながらニーズの把握に努め、課題解決に必要なハード・ソフト両面の支援対策を考慮し自立支援計画作成につなげている。スーパーバイザーによる心理療法を受け、心身両面のケアにも努めている。

(3) 母親への日常生活支援

①	A11 母親が、安定した家庭生活を営むために必要な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 生活経験に乏しい母親には、職員と共に行うことで経験を補う等の支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 心やからだの健康に不安を持つ母親には、相談に応じたり、医療機関への受診を促したりするとともに、栄養管理等の食生活への支援を行うなど、ニーズに応じた健康管理のための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、衣服の清潔保持や入浴など、気持ちよく暮らすために必要な衛生面への支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 経済的に安定した生活を送るために、必要に応じて家計の管理、将来に向けた貯蓄等の相談や支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 支援の必要性やニーズに応じて、家事・育児等、日常生活全般について、代行や介助等の支援を行っている。	

【コメント】

退所後の生活を見据えて家事全般・家計管理・学校生活・子育て・家族等との諸問題の課題に沿って担当職員は信頼関係を築き、きめ細かな養育支援に取り組んでいる。日用品の貸出しやDV被害から逃れてきた場合など居場所が特定されないよう配慮し、防犯カメラを設置するなど安心できる環境を整えている。また保育所への速やかな入所等にも尽力している。

②	A12 母親の子育てのニーズに対応するとともに、子どもとの適切なかわりができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 母親の育児に関する不安や悩み等の発見に努め、その軽減に向けた相談や助言、介助等を行うとともに、必要に応じて保育の提供や保育所へつなぐ等の支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親の状況に応じ、子どもの保育所・学校等への送迎の支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親が子どもを客観的に理解できるように、発達段階や発達課題について示し、適切な子育てやかかわりについてわかりやすく説明している。	
	<input type="checkbox"/> 虐待や不適切なかかわりを発見した時は職員が介入し、必要に応じて専門機関との連携を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、子どもが通う保育所や学校と連携している。	

【コメント】

保育所に入所できていない子どもや、保育所が休所の日、就労時に就労支援として補完保育している。食事などの子どもの世話がうまくできていなかったり、不適切なかかわりをしている場合は、母親が子どもの発達に応じた適切なかわりができるように世間話をしながら言葉を選び気づかせるよう工夫をしている。

③	A13 母親が安定した対人関係を築くための支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親が職員とつながっていることを実感できるよう、様々な場面で気軽に声をかけたり、相談に応じるなどの取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を自分の居場所として感じられるように、母親どうしが集うための機会や場を設け、交流を促すなどなど、関係づくりのための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 対人関係がうまくできない母親には、母親のペースに合わせた関係性の構築に配慮を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 社会との関係をとることの難しさから対人関係にストレスを生じている場合は、そのストレスの軽減が図られるよう、心理療法を行ったり相談に応じたりしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設内の他の母親や子どもとの間でトラブルが生じたときに、その関係性を修復もしくは改善するための支援を行っている。	

【コメント】

安定した人間関係を築く土台として、職員との信頼関係構築に努めている。他の人との距離をうまくとれず相手を悩ませたり、他の母親に子どもを預けてしまうなどトラブルになってしまう母親には丁寧に関わるよう努めている。対人関係がうまくいかずストレスになっている母親には、職員と一緒に外出し話を聞いてストレスを解消するなど工夫している。必要に応じて心理療法を行っている。

(4) 子どもへの支援

①	A14 健やかな子どもの育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの成長段階、発達段階に応じた養育支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 放課後の子どもの生活の安定や活動を保障し、活動場所、プログラム等を用意するとともに、日常生活上必要な知識や技術の伝達、遊びや行事等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> DVを目撃した子どもを含め、被虐待児等や発達障害を含む様々な障害等の特別な配慮が必要な子どもに対しては、必要に応じて個別に対応し、子どもの状況に応じた支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親のニーズや状況に応じて、施設内の保育支援や保育所への送迎、通院の付き添いなどの支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設内における養育・保育に関する記録を整備し、支援に役立てている。	

【コメント】

母親の就業支援のためだけでなく、子どもの生活リズムが整うように週2~3回保育を利用してもらっている。被虐待児に対しては、入所時に臨床心理士と子どもが顔合わせをし、その後プレイセラピーで徐々に話を聞いている。学童は、帰宅後職員の見守りのもと宿題を済ませ、自由遊びや外遊びに出かけたりしている。子どもが自らイベントを企画し、入所している子ども同士で楽しんでいる。

②	A15 子どもが自立に必要な力を身につけるために、学習や進路、悩み等への相談支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 落ち着いて学習に取り組める環境を整え、年齢に応じた適切な学習支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 学習の習慣を身につけるとともに、学習への動機づけを図っている。	
	<input type="checkbox"/> 進学や就職への支援について、母親と子ども双方の意向をくみ取り、学校と連携して情報提供を行いながら、具体的な目標を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 学費の負担軽減のため、各種の奨学金や授業料の減免制度等の活用への支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 学習指導のために学習ボランティア等の協力を得ている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人一人の個別性を重視した相談・支援を行っている。	

【コメント】

担当者が学校に出向き、担任から学校での状況を聞いたり、施設での様子を伝え学校と連携を図っている。進路の選択については、主に学校が学力の状況をみて母親と子どもと相談して決めている。施設でも進路や悩みの相談があれば、職員が相談にのっている。

③	A16 子どもに安らぎと心地よさを与えられるおとなのかかわりや、子どもどうしのつきあいに配慮して、人との関係づくりについて支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 母親以外のおとなにも受け入れられたり、甘えられたりする経験を増やし、おとなとの信頼関係が構築できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアや実習生など、様々なおとなとの出会いの機会を設け、多様な価値観、生き方への理解をすすめている。	
	<input type="checkbox"/> 悪意や暴力のないおとなモデルを提供することで、おとなに信頼感を持てるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 自分の気持ちをことばで適切に表現し相手に伝えることについて、日常生活の中でその方法を意識的に伝え、その能力が向上するよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 専門的なプログラムに基づいたグループワークを積極的に取り入れている。	

【コメント】

担当者だけでなく様々な大人との信頼関係づくりができるような機会を設けている。例えば公園遊びでのキャッチボール、年間にわたる野菜作りなどで工夫をしている。子ども同士の関係では、けんかの時、自分の気持ちを言えるよう言葉で表現してあげたり、仲直りのため背中を押してあげる等している。

④	A17 子どもの年齢・発達段階に応じて、性についての正しい知識を得る機会を設け、思いやりの心を育む支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に正確な知識を持って応えている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で性教育に関する知識や、性についてのあり方などの学習会を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育の計画があり、正しい性知識を得る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

子どもの年齢・発達段階に応じ、小さい子には、遊びや生活習慣作りの中でプライベートゾーンについて指導している。また、子どもたち一人ひとりを大切に、自分も相手も尊重することを伝え、命を大切に性に関することも学ばせている。今後、外部講師を活用するなど職員の研修を進めることを期待したい。

(5) DV被害からの回避・回復

①	A18 母親と子どもの緊急利用に適切に対応する体制を整備している。	b
	<input type="checkbox"/> 緊急時に備えて、夜間でも対応できる体制を構築している。	
	<input type="checkbox"/> 24時間の受け入れや広域利用など、広く母親と子どもの緊急利用を受け入れている。	
	<input type="checkbox"/> 役割分担と責任の所在を明確にし、配偶者暴力相談支援センター・警察署・福祉事務所等との連絡調整体制を整えている。	
	<input type="checkbox"/> 緊急時対応マニュアルを作成・整備している。	
	<input type="checkbox"/> 緊急利用のための生活用品等を予め用意している。	

【コメント】

山形県委託事業「緊急一時保護」の仕組みにより、女性相談センターや警察、福祉事務所と連携し、母親と子どもの緊急対応ができるように体制を整えている。夜間の緊急時は宿直者からの施設長に連絡が入ることとし、判断を仰ぎ対応している。緊急利用のための生活用品を用意している。

②	A19 母親と子どもの安全確保のために、DV防止法に基づく保護命令や支援措置が必要な場合は、適切な情報提供と支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 保護命令制度や支援措置・DV相談証明の活用について、情報提供を行うとともに、必要に応じて法的手続きのための同行等の支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 弁護士や法テラスの紹介や調停・裁判などへの同行等、さらに必要に応じて代弁等の支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> DV加害者に居所が知れ、危険が及ぶ可能性がある場合には、母親と子どもの意向を確認した上で、速やかに関係機関と連携し、保護命令の手続きや他の施設への転居等の支援を行っている。	

【コメント】

母親と子どもの安全確保ができるよう、誰がどのように担当するか内部で確認し、支援体制を整えている。法的な手続きなどについては、DVから避難している場合、避難先が相手に知られないよう細心の注意を払っている。そのため前の居住地の弁護士に依頼しており、打ち合わせ、調停の同行等数回にもわたって支援を行っている。

③	A20 心理的ケア等を実施し、DVの影響からの回復を支援している。	b
	<input type="checkbox"/> DVIについての正しい情報と知識を提供し、DV被害者の理解を促し、自己肯定感を回復するための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> DVから脱出することができたことを評価し、安心して安定した生活と幸せな未来について、職員と一緒に考え支援することを伝えている。	
	<input type="checkbox"/> 心理療法を活用し、医師やカウンセラーと情報交換を行いながら、より適切な支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、自助グループや外部の支援団体等の紹介を行っている。	

【コメント】

職員はDV被害を受けてきた母親と子どもに対し、厳しい環境の中、自己決定して入所を決断したことを職員は共有している。利用している母親や子どもについて、心理的支援が必要な場合は心理専門職につないで対応し、医療機関とも連携している。

(6) 子どもの虐待状況への対応

①	A21 被虐待児に対しては虐待に関する専門性を持ってかわり、虐待体験からの回復を支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 暴力によらないコミュニケーションを用いるおとなのモデルを職員が示している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもと個別に関わる機会を作り、職員に自分の思いや気持ちを話せる時間を作っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であることを伝えることや、感情表現を大切にすることで、自己肯定感や自尊心の形成に向けた支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 医療機関や児童相談所などの関係機関と必要な情報の交換を行いながら、より適切な支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 心理療法担当職員によるカウンセリング等の専門的ケアを実施している。	
	<input type="checkbox"/> 被虐待児に対する支援の専門性を高めるための職員研修等を行っている。	

【コメント】

虐待を受けてきた子どもには大事にされて守られる権利・生きる権利・育つ権利があることを職員は理解して一人ひとりと個別にかかわる機会をつくり気持ちを聞いている。心理療法担当職員を配置して継続的にスーパーバイズを受けている。一人ひとりを大切に自己肯定感を高めるよう支援している。

(7) 家族関係への支援

①	A22 母親や子どもの家族関係の悩みや不安に対する相談・支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親の家族関係の悩みや不安を受け止め、相談に応じている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの家族関係の悩みや不安を受け止め、相談に応じている。	
	<input type="checkbox"/> 家族の中に感情の行き違いや意見の相違がある場合、適切に介入し調整を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、他の親族との関係調整を行っている。	

【コメント】

母親と子どもの関係がうまくいっていないと親族ともなかなかうまくいらず保証人になってくれる人がいない場合は、施設長が保証人となっている。母親と子どもの感情が行き違い考えが違う時は双方に寄り添い、調整している。

(8) 特別な配慮が必要な母親、子どもへの支援

①	A23 障害や精神疾患、その他の配慮が必要な母親と子どもに対する支援を適切に行い、必要に応じて関係機関と連携している。	b
	<input type="checkbox"/> 社会資源の積極的な活用をするための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 公的機関や就労先、保育所や学校等と連携した支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 精神疾患があり、心身状況に特別な配慮が必要な場合、同意を得て主治医との連携のもと、通院同行、服薬管理等の療養に関する支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 障害や精神疾患がある場合や外国人の母親や子どもへは、必要に応じて公的機関、就労先への各種手続きの支援を行ったり、保育所、学校等、他機関と連携し情報やコミュニケーション確保の支援を行っている。	

【コメント】

障害や精神疾患、外国籍など特別な配慮が必要な母親に対して、専門機関や主治医と連携して支援にあたっている。関係機関とケース会議を開催し、情報交換と役割分担を確認して連携を図っている。保育所、学校とも情報交換し支援に活かしている。

(9) 就労支援

①	A24 母親の職業能力開発や就労支援を適切に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 母親の心身の状況や能力・適性・経験・希望に配慮した支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 資格取得や能力開発のための情報提供や支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 公共職業安定所以外にも、パートバンクや母子家庭等就業・自立支援センター等、様々な機関との連携や調整、必要に応じて、同行や職場開拓等の支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親が安心して就労できるように補完保育(残業や休日出勤時の保育等)、病後児保育、学童保育などを行っている。	

【コメント】

母親の休日出勤などに対応し安心して働けるよう補完保育や学童支援を実施している。スーパーやコンビニ、事務職、清掃作業などに就業し、企業に対し求人情報を問い合わせる等して取り組んでいる。また働きたくても健康問題で就労が難しい母親もいる。外国籍の母親は言葉の問題などで就労が難しい状態にある。ハローワークや自立支援センター、就労資格取得の情報を提供し、同行支援を行っている。

②	A25 就労継続が困難な母親への支援を行い、必要に応じて職場等との関係調整を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 職場環境、人間関係に関する相談や助言など、個々に対応した幅広い支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親が望む場合、就労継続のために職場との関係調整を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 障害がある場合や外国人の母親の場合、その心身等の状態や意向に配慮しながら、就労の継続に向けての支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 就労継続が困難な母親を積極的に受け入れている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて福祉的就労の活用を図っている。	

**【コメント】**

母親が継続して就労できるよう、自立支援計画の見直し時に母親の考え、意向を十分に聞き取るようにしている。気持ちの不安定さで職場に行けない母親などに対して、職員が励まし何とか継続している例もある。就労が難しい母親には各種給付制度や生活保護などの活用で生活安定を図っている。